

新発売

スリムで安定した能力を発揮する大型トラック用移動式リフト トラックサイドリフト

ASL-1500

- 最低位300mmのスリムボディーを実現し低床車に対応
- 最低位・最高位付近における推力の変化を抑制し、安定したリフトアップを実現
- 2つの安全装置を完備し安心・安全な作業を実現

NEW
オートサセブショ
出展



近日発売

15t

側面 差し込み

おすすめ商品

カンタン・衛生的と大反響のエアエレメント&DPFクリーナー吸塵王 デモンストレーション好評展開中！ エアエレメント&DPFクリーナー 吸塵王

AD-1/AV-1

- 高圧エアを吹き付けるだけでダストを一掃！
微粉塵フィルターが吸引したダストを逃がさず衛生的！
- エアエレメントもDPFも装置に置くだけのラクラクセッティング！
新型の箱型エレメントをはじめ様々な形状に対応
- 集塵システムに接続可能な集塵機レスタイプ(AV-1)もラインナップ

NEW
オートサセブショ
出展

デモ
できます！



トピックス

最新の排気ガステスターに入れ替えませんか？ 今なら下取りキャンペーン展開中！

ANZENでは、下記の排気ガステスターに入れ替えていただいたお客様に限り、今お使いの排気ガステスターを下取りのキャンペーンを展開しております。機種・メーカーを問わず一律で下取りいたしますので、是非この機会に入れ替えをご検討ください！

キャンペーン対象商品

排気ガステスター
ZKE



●標準でCO₂測定、
オプションでO₂測定も可能

排気ガステスター
MEXA-324L



●大きく見やすい画面と
ワンタッチ操作で実用性抜群

2011年
12月28日まで

古くなったテスターはごさいませんか？
全ての機種を下取りいたします！

メーカー・機種は問いません！

デジタル式
一律
¥30,000
で下取り！

アナログ式
一律
¥10,000
で下取り！

詳しくは最寄りの営業所までお問い合わせください



保守点検のおすすめ

ANZEN製品を長くご利用いただくため、保守点検サービス（有料）のご利用をおすすめします。お近くの営業マンまでお問い合わせください。

24時間サービス体制

ANZEN製品を「安心」してご利用いただくために、24時間サービス（ボイスワープ）対応をいたしております。営業時間外、および休日におけるサービス電話受付ができます。担当の営業所の電話に連絡していただければできる限り迅速な対応をいたします。

ANZENカスタマーサービス

☎ 0120-01-6361 当社の製品およびサービス、その他に関するお問い合わせは左記のフリーダイヤルまでお気軽にどうぞ。受付時間：月～金（AM9：00～PM5：00）

ANZENホームページ

http://www.anzen.co.jp ホームページ「ANZEN Web」ではANZENの最新情報を提供しています。

●発行所/安全自動車株式会社 マーケティング部 東京都港区芝浦4-16-25 ●ANZEN NEWS 53号（2011年10月1日発行）

2011

Autumn
VOL.53

自動車整備の最新がわかる
ANZEN NEWS



CHARGE

》》》 自動車整備業界におけるCO₂排出量削減の取り組みを推進 《《《

CO₂排出量削減

電気代削減

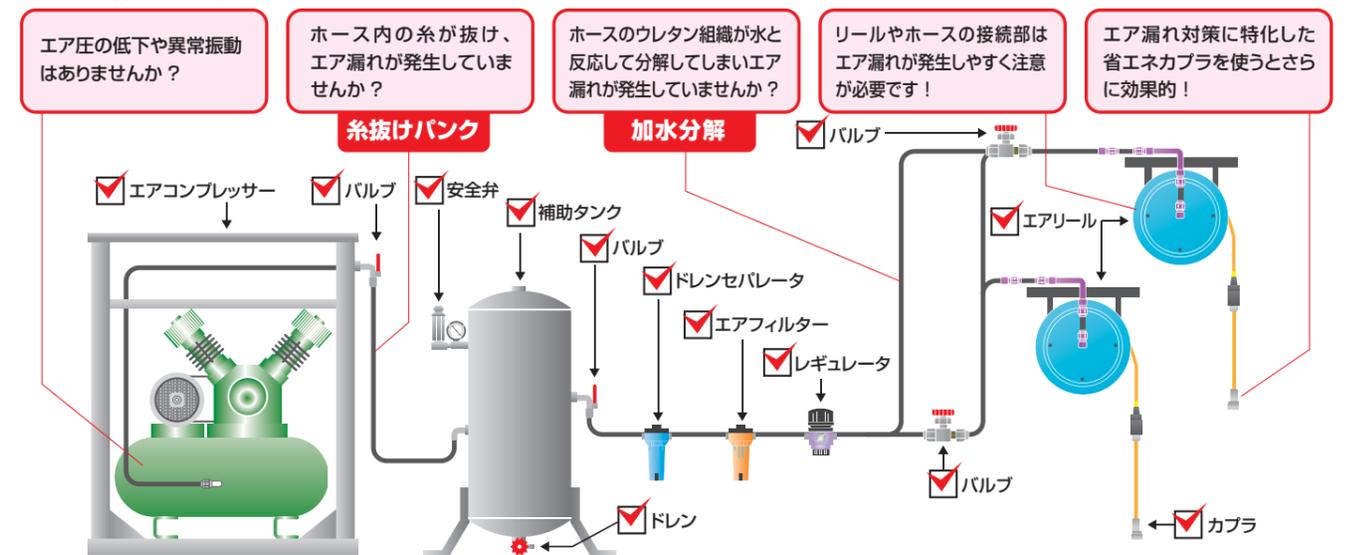
『エア漏れ』をなくして 省エネ・省コストを実現しましょう！

自動車整備業界における環境対策として、すぐにできる効果的な取り組みが「工場内のエア漏れ対策」です。日本自動車機械工具協会の調査では、約6割の工場で配管、リール、ホース、カブラなどから圧縮エア漏れが確認されています。まずはお客様の工場でどれくらいエア漏れが発生しているのか調べてみませんか？

工場内を巡回してエア漏れの発生箇所をチェック！

エア漏れをなくすことは消費電力を抑え、CO₂排出量を削減するだけでなく、**経費の削減**にもつながります。エア漏れの発生箇所から、エア漏れ量と年間損失電力費を計算し、改善ポイントを確認しましょう！

■エア漏れの点検



■エア漏れ量の目安と年間損失電力費の目安

調査方法	聴覚	エア漏れの目安		年間損失電力費の目安	
		L/min	1ヶ所(円)	10ヶ所(円)	10ヶ所(円)
30cm 離れて	かすかな音	1	220	2,200	
	スー音	2	440	4,400	
	シュー音	10	2,200	22,000	
	強いシュー音	20	4,400	44,000	

配管などのエア漏れ箇所から30cm離れて強いシューという音が聞きたれば、約20L/minのエア漏れがあることになります。また、これをなくすことで年間のCO₂排出量を100kg削減することができ、電気代に換算すると約44,000円削減できることになります。

※860L/minの圧縮機(7.5kW)を1日8時間・月20日使用し、東京電力のCO₂換算係数で算出した場合の金額

エア漏れ対策+αのメンテナンスの実施も有効

配管及びリールなどのエア漏れが発見された場合は、対策を確実に実施し、ムダな運転を防ぎましょう。また、エアコンプレッサーは工場の心臓部でもある重要な機器。万が一トラブルが発生した場合は、エア機器が使用できなくなり、工場の機能がストップしてしまう可能性があります。エアコンプレッサーに不具合がある場合は、電気消費量の増大にもつながりますので、定期メンテナンスを確実にいきましょう！

エア漏れ対策+αの定期メンテナンスを実施することで、省エネ・省コストだけでなく、快適な作業環境の実現に結びつけていきましょう！



株式会社スズキ自販北陸 金沢西営業所／アリーナ金沢

いま注目!
のショップ訪問

石川県石川郡野々市町御経塚3-38
Tel 076-249-6170

今回訪問した株式会社スズキ自販北陸 金沢西営業所／アリーナ金沢は、2営業所を併合し、営業所及びアリーナ店として今年4月に新天地に新設オープンしました。それぞれ、金沢西営業所が総勢16名(営業14名、業務2名)、アリーナ金沢が総勢12名(営業6名、サービス6名)です。「北陸地域で他社に負けない、上質な営業所・サービス工場を目指した」と部品部長の下出さんが話すように、北陸地域における「スズキ・ディーラー」の存在感を強く打ち出した注目の店舗となっています。現在は認証工場ですが、将来的には指定を取得する方針の同社。お客様に最高の満足を提供していくことをモットーに掲げる同社の企業ポリシーを伺いました。



株式会社スズキ自販北陸 部品部長
下出 秀夫 様



株式会社スズキ自販北陸 サービス部長
坂井 幸夫 様



アリーナ金沢 サービス工場長
中村 雅直 様

株式会社江ノ電バス藤沢 湘南営業所 整備工場

知りたい!
元氣な工場の秘密

神奈川県藤沢市宮前1
Tel 0466-55-1002

株式会社江ノ電バス藤沢は、言わずと知れた藤沢～鎌倉間を走る「エノデン」こと江ノ島電鉄株式会社のグループ会社。バス事業を始めたのは実に昭和2年のこと。そのバス事業が平成10年8月に独立し、前身である江ノ電バス株式会社が設立されました。その後、平成20年4月に現在の社名に変更され、今年の6月には藤沢・鎌倉・横浜の3工場を統合して湘南営業所整備工場を新設オープン。現在は総社員数264名で、そのうち23名がメカニックとしてバスの整備を担当しています。同社が保有するバスは全部で255台。工場統合後、湘南営業所整備工場では新たに導入した新鋭機器をフル活用し、従来3工場で行っていた整備を一手に引き受けています。



株式会社江ノ電バス藤沢
取締役社長
平塚 克規 様



江ノ島電鉄株式会社
自動車部 業務課 課長代理
金子 好幸 様



株式会社江ノ電バス藤沢
湘南営業所 整備工場 整備長
竹内 久二 様

北陸地域一を誇る最新鋭のサービス工場が誕生

■目指したのは北陸地域一のサービス工場

新設サービス工場のコンセプトは「お客様に安全と安心を提供できる整備工場」。「過去の設備は、あくまで作業をする「昔ながらの整備工場」であり、お客様が来て満足を得られる環境ではなかった。」と下出さんは話します。今回の工場新設にあたっては、整備風景をお客様に見ていただく事も重要なサービスの一つとして捉え、最新鋭の設備を取り揃えて、お客様にも楽しんでもらえる上質なサービス工場を誕生させました。

明るく開放的なショールームには、隣接するサービス工場内が一望できるスペースを確保。入庫促進策のメンテナンスパックに含まれるオイル点検など、お客様は自分の車両がどのように整備されているのか、ガラス越しに眺めることができます。



カウンターから整備風景を
ゆっくり眺めることができる

「整備風景が見えることで、初めてご来店されたお客様にも安心感を持ってもらえるはず。お客様に本当の意味での安全・安心を感じてほしい」と、下出さんは「見える化」のメリットを考えています。

■最新機器のラインナップでどんな車両の整備にも対応

同社のサービス工場のレイアウトは、8ストール+完成検査ライン+門型洗車機。「今までは古い機器で作業していたため、今回初めて手にする機器も多く、現在、トレーニングを兼ねて使用しています。検査ラインで最も重宝しているのは画像処理方式の「全自動ヘッドライトテスター」です。クルマを設置すればテスターが移動してセンター合わせをしてくれるので、とても効率的です。さらに、検査ラインに導入したトータル車検ラインシステム「ラインマスター」で、合否判定も一目瞭然です。」と機器の使用状況についてサービス工場長の中村さんは話します。



「全自動ヘッドライトテスター」は
作業の効率化を重視し導入



「ラインマスター」の導入で、今まで
2人で行っていた作業が1人でも可能に

また、リフトも作業効率と快適さを考慮して使い分けています。「マルチリフト」は主に1ヶ月・6ヶ月点検とオイル交換に使い、「アルネオリフト」はエンジンやミッションの脱着などの重整備に使っています。そして、乗り入れや作業利便性などを考えてプレート&アーム式とスイングアーム式を使い分けています。さらに、リフトアップして車体を洗浄するときには耐水仕様のリフトを使っています。どのリフトも、共通している導入の決め手はフルフラットであることでした(下出さん)。



フルフラットな床面で
クリーンで快適な作業

■最新洗浄機器で環境配慮と効率整備

洗浄関連機器は、環境に配慮した最新モデルを導入しました。高温温水洗浄機は、灯油式に比べてCO₂排出量の少ない電気式を採用。灯油のタンクは、設置に消防法の許可が必要な上にメンテナンスも手間がかかるのに対し、電気式はその手間がかからないのも魅力です。また、門型洗車機には節水仕様を導入。「入庫したお客様には洗車をしてお返しするというのが基本です。冬場の洗車作業はスタッフにとってもきついですし、人員の削減・効率化を考え、「カービスEXeco」を設置しました。節水仕様なので、経費の削減にも貢献しています」とサービス部長の坂井さん。同社では今後のEV車の普及も見据え、EV用のコンセントも検査ラインに配備するなど、見えないところへの配慮も随所に行き届いています。そんな同社が掲げる今年度の会社方針は「(A) 当たり前のことを、(B) バカにしないで、(C) ちゃんとやる」というABC法則。ヒト・モノ・店の3価値の底上げに社員一丸となって取り組む同社の今後の発展に期待がかかります。



今注目の環境にやさしい
「電気加熱式高温温水洗浄機」



同社初の導入となる節水仕様の
「カービスEXeco」

安全性に配慮した設備で3工場分の整備を一極集中化

■工場統合を機に安全を願いリフトを導入

「安全が全て。運転も整備も安全第一」と語るのは、平塚社長。同社は、老朽化や周辺環境の変化などを受け、工場の一極集中化を決意。長く使ってきた藤沢・鎌倉・横浜の3工場を統合しました。平塚社長の意向や現場の希望もあり、新しくリフトを備えるなど最新設備を導入。完成した整備工場は5ストール+検査ライン+板金・塗装ブースに、屋外洗車場。「よい設備を入れたので、皆は引ききって来ている。これからも安全に仕事に励んでほしい」と平塚社長は続けます。念願のリフトは「2柱式ツインパワーリフト」が3基と、「2分割フロアリフト」が1基。江ノ島電鉄株式会社の金子課長代理は、「「ツインパワー」は床面がフラットなので、最近の低床バスに対応するためにも必要でした」と話します。「作業も立ったままできるようになったので、導入してよかったです(金子さん)。また、「フロアリフト」について、整備長の竹内さんは「2人の作業者が自分の身長に合わせて前後で同時に作業でき、期待通りでした」と感想を述べます。「クラッチの整備ではバスに乗り降りしながら作業するので、車両を上げずに上下で同時に作業ができるのも便利です」と竹内さん。最新のリフトによる安全・快適・効率的な整備が、3工場分の整備を1工場で可能にしたようです。



低床車に対応する「ツインパワー」
整備士の作業負担も大幅に軽減



使い方自在の「2分割フロアリフト」で高効率整備を実現

■基本に忠実に当たり前のことを徹底

「安全な整備」を目指して完成した新工場。その想いは設備だけでなく、整備のこだわりにも表れています。工場内はきれいに清掃され、タイヤの跡すら目立ちません。「床の汚れやキズなどに足をとられれば、ケガに繋がります。掃除で防げる事故なら、掃除をすればよいだけです」と竹内さん。他にも、未使用時の車検ラインはコーンで囲み、BSテスターのローラーには木の板を被せるという徹底ぶり。「特別なポリ

シーはありません。基本に従い、当たり前のことを徹底するだけです(竹内さん)。当たり前のことを徹底。その信念は、整備の品質にも及びます。トルクレンチを用いた締め付けトルクの管理はもちろん、自分たちでも校正ができるよう測定器も準備。車検に関しても、ヘッドライトテスターを入れ替え、すれ違い灯測定を可能にしました。ここまでコンプライアンスを重視するのも、やはりお客様を運ぶ「バス」という事業への誇りがあるからなのでしょう。



転落・転倒防止のため、
安全対策がされた車検ライン

■お客様の身になってトラブルゼロを目指す

「バスのトラブルはたくさんの人に迷惑をかけます」と金子さん。そこで同社は法定点検以外に、路線バスは1.5ヶ月、長距離バスは1ヶ月ごとの自主点検を実施。「壊れる前に早めに部品を交換し、路上故障を防いでいます(金子さん)。竹内さんも「バスが途中で動かなくなったらどんな気分か」と常に乗客の身になって作業しているとのこと。夜間高速バスなどは一番神経を使うそうです。しかしどれだけ気を使っても、「絶対」はないという金子さん。「万が一のための予備車や、レッカー車・タクシーの手配なども想定しています。夜間のトラブルも、工場に交代で泊まっている整備士が即対応します」と、万全の体制を整えているようです。「知名度も高く、地元の方から観光客まで多くの方が利用する江ノ電。まずは地域に密着して地元へ愛されながら、観光にも力を入れていきたい」と締めくくった平塚社長。社名を背負い、お客様の命を預かって走る江ノ電バス。それを陰から支えるべく、整備士の皆さんは今日も気を引き締めて汗を流しています。



ずらり並んだ江ノ電バス
全てがこの湘南営業所で整備される